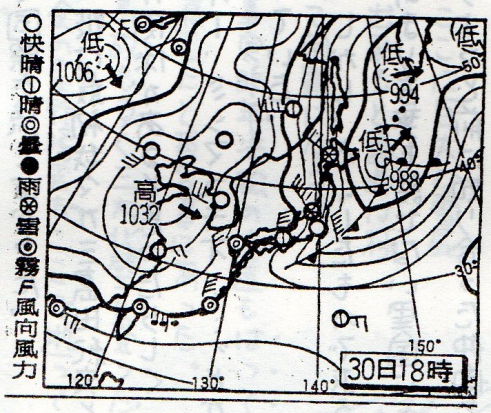
ずねられる。

「三島勤労者山岳会」です。と答えると、「ああ、三島さんですか、我々は、ぶな会です。」と答えた。

私は一瞬「オッ、あのぶなの会」と思った。色々話しをうかがってみると年配の方は、「山と仲間」「登山時報」などの編集もし、



先般のインドヒマラヤ遠征の総隊長を務めた松島さんだった。

私とか、竹端さんなどは知っている様子だった。

BCでの交流を約束して別れる。この頃よりモーレッな南風が吹きまくってきた。

森林帯だから良いが上は相当吹いているだろう。

下山してきた人が今日はヤメた方が(行動を)よい」といっていた。いっしか雪も降ってきた。

BC予定地に着いた。上のテント場を見にわくガ、吹きっさらしでモーレッな風が吹いている。

これではダメだと判断し、風下にテント場がある下のテント場を選ぶ。

ここは丁度尾根の陰で全く風がこない所だ。

テントを張り終えたころ「ぶなの会」の人達も登ってきた。彼等は我々のとなりにテントを張る。

夕食後「ぶな」のテントに呼ばれて(おしかけて)交流会がはじまった。

自己紹介、県連、会の現状、ヒマラヤ遠征の話、山のうたなどで交流した。

特に異色のイギリス人、Mトデビットは人気の的で、怪しげな英語

「ぶなの会」の
イギリス人
Mトデビット　25才